

富山県立小杉高等学校活動報告

◆活動取組みの紹介

私たちボランティア委員会のスローガンは「地域に貢献できるボランティアを考えよう！」ですが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなかボランティア活動が思い通りにいきませんでした。そこで、委員長や副委員長が中心となり、自分たちで何ができるかを考え、様々な活動を実施しました。

●書き損じハガキ（日本ユネスコ協会連盟）と赤い羽根共同募金活動

日時：令和4年1月19日～21日

参加者数：小杉高校ボランティア委員会 39名と生徒会執行部 7名

ボランティア委員を中心に書き損じハガキの回収と赤い羽根共同募金を3日間行いました。朝は生徒玄関に立ち、生徒会の皆さんと一緒に挨拶をしながら、募金を呼びかけました。お昼時には、放送で募金のお知らせをした後、各教室や職員室に募金箱を持って回りました。朝の玄関だけではあまり集まりませんでした。各教室や職員室を回ることで生徒や先生からたくさんご協力をいただきました。全校生徒、教職員から9,116円集まりました。後日、富山県共同募金会の河合会長から、感謝状が届きました。



↑ 生徒玄関での募金活動の様子

◆活動していてやりがいや喜びを感じる時

今回、小杉高校では2954点ものベルマークが集まりました。思っていた以上に多くのベルマークが集まったので、とても驚きました。ベルマークを仕分けする作業は大変でしたが、ボランティア委員全員が協力して全校生徒に集めてくれたことを考えるとうれしかったです。貧困などで困っている人たちのためにベルマーク回収をし、その点数が増えるとより多くの寄付ができると思うととてもやりがいを感じました。（小杉高校ボランティア委員）



↑ベルマークの仕分け作業の様子

◆最後にひとこと

ボランティア委員会での活動を通して、人のためになることの意義を実感しました。私たちは、普段から当たり前のように幸せな生活を送っています。が、世界にはそうでない人が多くいます。これからもボランティア活動を通して、少しでも困っている人たちの助けになればいいなと思いました。（小杉高校ボランティア副委員長）